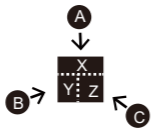


複合化

- ・どんな機能を複合すれば常に稼働し市民に利用してもらえるかの視点が重要
- ・建物種別として展示室とホールは別である
- ・専用の展示室というよりは会議室等と兼用のほうが現実的か
- ・多目的が無目的に変わってはいけない。コンセプトを持つことが大事
- ・古くなった公共施設を集約して複合化する地方都市が多い
- ・展示室で展示のない時の利活用を考えたい
- ・複合化し部屋を共用することで面積の融通をきかせる
- ・会議用の会議室ではなくて、演出準備と会議両方使える部屋がほしい
- ・複合化で新しい価値が施設に付加されることで、稼働率がどう変わるか
- ・芸術展示ギャラリーを劇場型のホールと同等の位置付けにしてほしい
- ・展示室は現在の市民文化会館の広さが必要



日常的な利用

- ・ホールの建設時には、利用経験に差があることから、「全ての人が利用するわけではないのに、なぜそんなにも予算を使う必要があるのか」という議論がよく出る
- ・催事がない日はシャッターが閉まり、寂しく感じるので、見て楽しめる要素などもあると良い
- ・おのずと人が集まるようなエントランス広場
- ・図書館やギャラリー等の日常的に使う機能を複合することで使用率を上げる



余白空間

- ・ホールから出た時の圧迫感が苦手なので、ホール以外の公共スペースを広くつくってほしい
- ・メイン機能の床面積以外の空間に面積を充てていくのが最近の文化施設の傾向として非常に特徴的である



屋内型パブリックスペース

- ・北海道では冬季間、屋外スペースが機能しなくなる
- ・屋内型パブリックスペースという選択肢
- ・水戸市民会館のように屋内型広場があれば冬季に室内で待つことができるので良い



立地・敷地

- ・新たなホールの面積は現状よりも大きくなる
- ・搬入などを考えた道路との接続
- ・瞬間的な人の動きを吸収できるよう、駐車場や広場など、土地のゆとりをどれだけ確保できるかがポイント
- ・事例から建設用地の広さが必要だと感じた
- ・敷地の使い方なども考えながら議論する必要がある
- ・将来の人口と交通の変化を考慮し敷地を選定する必要がある
- ・大ホール・小ホールなど、複数のホールを有するので、割と大きめになる



コンベンション

- ・コンベンション機能があることで経済効果を見込める
- ・現状、市民文化会館は近隣のホテルと併用で1,000人規模の催事を開催することができる
- ・全国規模の大会やコンベンションを実施すれば、地域の活性化につながる
- ・3,000人規模のコンベンションが開催できる機能があると良い
- ・国内外から大会などで利用者が訪れるような施設を作してほしい
- ・旭川市の状況を考えると、コンベンション的な機能を複合することが現実的



インクルーシブ

- ・聴覚障害のある方への対応機能やサービス
- ・年齢や性別、身体能力によらず誰でも立ち寄りやすい居場所とすることが大事
- ・従来のアプローチを打破し、視覚・聴覚障害のある方が美術・絵画・彫刻を楽しめるデザイン
- ・ホールでは席が確保されているが、オープンスペースが狭い施設では、ホールの外だと圧迫感がある
- ・車椅子トイレを男女別に造ってほしい
- ・車椅子でも使いやすい駐車場を
- ・利便性を高めるため、動線を短くする入口も必要では
- ・動線を長くするか短くするかはメリットとデメリットとがあり、ニーズに応じて選択できることが重要



アクセシビリティ

- ・高齢化に伴い、アクセシビリティがますます求められる
- ・子どもを持つ親としては、屋外スペースにゆとりがあると入りやすい



シンボル性

- ・まちに対する環境をデザインすることが大事
- ・ランドマークになるような施設
- ・(エスコフィールドのような)建物自体に魅力がある施設



予算

- ・イニシャルコストは、1,500席の大ホール単独施設で100億円程度、1,800~2,000席の大ホール+会議室等で130~150億円程度、本日意見のあったアイデアを全て実現しようとすると200億円以上になると見込まれ、また建設費は年々上昇傾向にある
- ・イニシャルコストに費用をかけることで、ランニングコストを圧縮できる部分もある



オリジナリティ

- ・文化ホールの性質は、多目的に使えるものやオーケストラ等に専用特化したものなど幅があり、施設でどうまちづくりをしていくのかという考え方で、施設のパフォーマンスが変わってくる
- ・自治体ごとのオリジナル性をどれだけ練り上げられるかが求められる
- ・私たちの市民文化ホールはどんな考え方で何を指してどこに個性を持って考えていくのか



ホール機能

- ・演奏家としてこのホールで演奏・レコーディングしたいと思える音響設備
- ・現状の稼働率は音楽の割合が高いので、良い音楽を良い環境で聴けることが大事
- ・客席数を可変式にするなど、現在公会堂が担う中ホール機能の継承も考える
- ・音楽的な部分は絶対に良いものを造りたい
- ・多層にすることで機能を充実させられると良い
- ・音楽ホールと会議室の機能は分ける必要がある
- ・中ホールや小ホールは避難所としても使えると良い



ついで利用

- ・行ったついでに何か見れるとか、他にも何かできるような多用途であると良い



相互性

- ・旭川で芸術分野に従事する有識者の方々と相互につなげる文化会館の在り方が必要



道北の中心としての施設

- ・道北における文化の大きな基盤
- ・現施設と同程度の規模の文化施設が、周辺の市町村にはない。周辺の市町村の分も担うという気持ちで造るのかどうか
- ・3,000人規模のコンベンションに対応できる宿泊施設を有しているのは北海道では札幌と旭川だけである



文化醸成

- ・文化芸術は楽しむもの、自己成長のためのもの
- ・旭川市文化芸術振興条例を吟味し、新施設との整合性をとる必要があるのでは
- ・この建物があったからこそ旭川の文化が深まったと思えるような施設
- ・旭川の文化を育む
- ・音楽、芸術の足がかりとなるような施設

